

第4章 韓国料理に舌鼓 ～ 韓国 ～

この旅行の後、私は再び刺激的な旅を熱望するようになる。

4.1 仏国寺と石窟庵 { 慶州 {

4.1.1 地下鉄で居眠り 1997年12月28日(日)

久しぶりの旅行だ。福岡空港でチェックインの時、ある荷物がカウンタの前に置きっぱなしになっていた。アジアナ航空の人が気付き、それをどけて並んでいる人の後ろの方へ持っていったのだが、韓国人のおばちゃんがそれを持って私の前に置いた。そして割り込んだ。日本語がわからないらしく、どうしようもなかった。アジアナのお姉さんは韓国語ではなく日本語で

「みなさん並んでるんですから。」

と一応ひとこと言ったが、効果なし。おばさんパワーに圧倒されてしまった。おいおいアジアナ、韓国語しゃべれないのか？ でもかわいいから許す。

飛行機が離陸するあの瞬間は、やはり気分が高揚する。さらば日本。心の中で叫んでしまふ。とても楽しい。所用時間1時間45分であっという間にソウルだ。一応、機内食も出た。ちょっとした寿司のセット+デザート。

ソウルに着いてから地下鉄に乗ったのだが、地下鉄路線図の駅名がハングル文字+英語読みの表記だったのでとてもわかりにくかった。『地球の歩き方』を思いっきり広げ、照らし合わせながら行き先を確認した。判読して切符買うまでにえらく時間がかかった。

韓国は町のパーツが日本と同じだ。歩いている人も日本人と見分けがつかない。何のわくわく感も緊張感もなく、外国に来た感じがしないのだ。(そうか、インドは空港出たとたん「インド」だったもんなあ。) そのせいもあって地下鉄では1時間以上眠りこけてしまい、気がついたら乗り過ぎて全然どこかわからんところにいた。とりあえず降りてまた路線図とにらめっこし、30分ぐらいかけて引き返した。

鐘路3街^{チョンノサムガ}で降り、地上へ出てみた。あまり感動がない。露店がずらっと並んでいるのは楽しいが、何かもの足りない。新宿を歩いているような感じだ。あまり寒くもない。看板はハングルばかりで全く何が何だかわからない。McDonald's と KFC だけは良くわかる。とりあえず宿を探そうと思いき(その時点で17:00 ちょい過ぎ) 大元旅館^{テウォンヨクアン}を目指した。

そこでは思いっきり日本語が通じ、部屋も空いてると言われた。シングルを頼んだら、

そこから5分ほど離れたところに連れていかれた。系列旅館か？旅館の名前を控えるのを忘れたんで、どこに泊まったのかわからん。1泊11,000ウォン。一晩だけ泊まることにした。前日遅く寝たのでとても眠い。

この旅行、面白くなるのだろうか。

4.1.2 コソップス・トミノル 1997年12月29日(月)

8時ごろ起き、顔を洗いに部屋を出たら日本人に会った。彼も昨日来たらしく、ソウルの町に私と同じような印象を持ったそう。何かつまらない。彼は、予定より早く帰ろうかと思ってると言っていた。私はまだ眠く、9時半ごろまで部屋で寝ころんだ。

ソウルにはまた戻ってくるので観光は今日せず、^{キョンジュ}慶州へ行くために高速バスターミナルへ地下鉄で行った。ソウル高速バスターミナルは京釜線ターミナルと嶺東・湖南線ターミナルがあり、慶州行きは京釜線の方なのだが、『地球の歩き方』に載っているターミナル図とその中の構造図は、京釜線と嶺東・湖南線が逆になっている。逆の方に行っちゃったじゃないか！

さて、切符売場ではまたハングル文字に悩まされた。ここでは『旅の会話集 韓国語』がとても役に立った。持って来て良かった。切符を買う時、初めて韓国語をしゃべった。聞き返されることもなくすんなりと切符を手にした時、「旅の楽しみ」を少し感じた。なんか嬉しかった。

バスが出るまで少し時間があったので、売店でパンと缶紅茶を買って慶州行きのバス乗り場でベンチに座っていた。そしたら韓国人の女の人が2人、私に話しかけてきた。何を言われたのかわからず、

「すみません、わかりません。」

と言ったら

「日本人ですか？」

と聞き返された。彼女たちは片言の日本語で

「家が大変でアルバイトをしています。このチョコレートかキャンディを買ってくれないませんか。」

というようなことを説明した。1,000ウォンでチョコレートを1枚買った。多分、相手がおっさんやおばちゃんだったら買わなかっただろう。美人は得だねえ。

バスに乗り込み、途中休憩1回で4時間半かけて慶州にたどり着いた。着いてすぐ^{ハンジンチャンニョグァン}韓進荘旅館へ歩き、簡単に見つけた。部屋もあり、すんなりと慶州での宿が決まった。トイレ・バス付きで1泊20,000ウォン。とにかくきれいだ。布団2人分敷けるだけの広さがあり、当然オンドル。トイレトーパー、タオル、石鹸まである。お湯も出る。まともだ。壁には絵が掛かってるし、屏風なんてあるし、引出し付きの台に乗ったちゃんと映るTV。極め付けは全身どころか部屋全体が写る、布団と同じくらいの大きさの鏡…。なんて快適なんだあー。

こんないいところに泊まれるとは。日本円に換算すると2千円だぞ。この快適さならずっといられる。いや、住める。か、感動的だ…。「荘」旅館レベルって、ただの旅館と

こんなにも違うのか。驚いた。

今日はロビー（部屋のすぐ隣り）で他の旅行者と話しをして過ごし、夕食はその多国籍メンバーみんなで近くの食堂へ行った。韓国へ来て初めて食堂に入った。壁のメニューはハングル文字だけで、さっぱりわからない。『地球の歩き方』に折り込みの、写真付き韓国料理紹介を使って注文した。これはとても便利だ。

スンドウブチゲというもので、「とろみのない麻婆豆腐アサリ入り」といった感じだった。でもこれ、なんかちょっと違うんじゃない？ でもあったまった。ごはん、キムチその他のつけ合わせがいろいろ出て来た。最後に高麗人参茶（以前、新川さんにもらったのと全く同じもの）を出してくれた。でも、まだ「韓国に来たぞ！」という感じがしない。明日はようやく観光のはじまりだ。

4.1.3 古墳のある景色 1997年12月30日(火)

今日はカメラとガイドブックを上着のポケットに突っ込み、朝9:00ごろ出発した。市内バスは座席バス102に乗ったが降りるところがわかりにくく、途中ちょっと不安になった。しかし着いてみるといかにも観光地のバスロータリーというところで、とてもわかりやすい。

降りる時に日本人のおじさんに声をかけられ、その人たちと一緒に^{フルクサ}仏国寺へ向かった。メンバーは、韓国通らしい大阪のおっちゃん、芸大で建築を専攻している先生と助手、そして私の4人。仏国寺では観音堂の観音像のバックにある絵に魅きこまれた。また寺にはあらゆるところに龍があしらってあり、色も派手すぎず堂々とした建物だった。芸大の2人が仏国寺出口の門を見て

「かるやかで、横に伸びがある。とてもいい門だ。」

と評していた。また、寺の石の使い方が面白いと言ってたり、専門的な話しを2人でして、横で聞いているのが面白かった。

仏国寺の中で大阪のおっちゃんとははぐれてしまい、その後会うことはなかった。3人で^{シルラ}新羅食堂で昼食をとり（ビールがうまかった）、午後は^{ソクラム}石窟庵へ向かった。石窟庵行きのバスを降りてから石窟庵までの徒歩の道は、お2人いわく

「日本ではこんな風にはできない。」

という良いつくりのものであった。2人がいなければ、私は何とも思わなかっただろう。

石窟庵自体は仏像の存在感は素晴らしかったが、

「え、これだけ？」

という感じだった。ガラス越しにしか見れないようになっており、また写真を撮るのも禁止なので、じーっと見てきた。

それから、タクシーを拾って3人で^{ユンコンウォン}古墳公園へ行った。タクシーはメーター制で、ボられなかった。古墳公園は今日一番のヒットだった！何かちょっと不思議な世界へ入り込んだ感じがした。大きな土の盛り上がりが連なっている景色はすごい。遠くの山と古墳とがひとつの景色となり、夕暮れ時という効果も加わってとても幻想的であった。

お2人は写真を撮りまくっていた。

「シュールだ！」

を連発し、

「雪が降ったら、緑だったら、もっとシュールだ。」

と言っていた。それに比べて東洋最古の天文台と言われている^{チョムソンデ}膽星台の方はあまりパツとしなかったが、膽星台へ向かう途中の古墳群はまた素晴らしかった。

その後はちょっと民家が集まっている裏路地を2人の批評を聞きながら巡り、サムゲタンの店、^{ファンニョン}黄龍を目指した。17:00 ちょい過ぎにようやくたどり着き、そこで3人で酒を飲みながらサムゲタンを食べた。いや～、とてもうまかった！最高だ！

店を出ると外はもう暗くなっていた。少し商店街や市場をぶらつき、駅の近くで2人と別れた。2人は明日、^{アントン}安東へ行くということだ。タクシーを借りているそうで、結構金かかってるらしい。一緒にどうかと誘われた。ただ、朝7:00に2人の泊まっている慶州朝鮮ホテルへ来いというのがつらい。多分起きられませんか。

行きたいけど、他にも行きたいところあるしなあ。とりあえず「行きます」とは言っておいたが、7:00にホテルに来なかったらもう来ないもんだと思って出発して下さいとも言っておいた。2人と別れた後、駅で時刻表を買って宿に帰った。

今日は2人につられて写真を撮り過ぎてしまった。もうフィルムがない。しかし、楽しい一日だった。慶州が好きになった。古墳と現代の街が一体となっているのは面白い。歴史のある街というのはやはりいい。一緒だった2人は東京芸術大学のK助教授とKさん。2人の話を聞きながらの観光も面白かった。

さて、宿に帰ってから時刻表と『地球の歩き方』とを使っているいろとプランをたてた。さんざん悩んだが、明日は2人には会いにいかないことにする。やはり、もう1つの世界遺産、海印寺へ行こう。何とかスケジュールに入れられた。バスの乗り継ぎがちょっと面倒だが、何とかなるだろう。もう1日あればなあ。やっぱり1週間は短いよ。旅程、欲張り過ぎかな？ソウルもあまり見れないかもしれない。

とにかく明日は慶州におさらばだ。ちょっと名残り惜しい。素晴らしく居心地のいいところだ。商店街はかなり充実している。市場の中の食堂で食べたかった。時計屋がいっぱいで、約50メートル毎にある。なんでこんなに多いんだ。時計屋ってそんなに儲かるのかな？街を歩いているお姉さんはみんな美人に見える。うーん、いいところだ。しかしどうも緊張感がない。外国にいる気がしない。明日はリコンファームせねば。あ、明日って大晦日じゃん。

4.2 八万大蔵経と板庫 { 海印寺 {

4.2.1 八万大蔵経 1997年12月31日(水)

今日は忙しかった。朝9:00ごろ宿を出て、まずは郵便局へ向かった。絵はがきを5枚買いい、日本へ年賀状を出した。郵便局にタダでもらえる卓上カレンダーがあったので、2つもらってきた。それから慶州駅の売店でテレフォンカードを買い、アジアナ航空ヘリコンファームの電話をかけた。

それから気になっていた^{ファンナン}皇南パンへ行ってみた。慶州のおみやげとして有名なパンの店だそうだ。建物を見つけて正面に近付くと、入口が2つあって店が2つに分かれている。どちらも同じに見えるが、何がちがうんだ？ 客がいなかったんで入りづらかったが、とりあえず右のドアを押して入った。20個入りを買ったが、それとは別にできたてを1個手渡ししてくれた。温かくてとてもうまかったが、パンというより饅頭である。20個は多い…。今、食べきれずにまだ残っている。

高速バスで大邱^{テグ}へ向かったのだが、大邱はバスターミナルが複数あって、それぞれ離れた場所にある。やっかいた。高速バスが着いたのは東大邱^{ドンテグ}駅近くのバスターミナルで、海印寺^{ヘインサ}へ行くには西部バスターミナルへ行かなければならない。市内バス12番に乗った。この市内バスの終点が西部^{ソブ}バスターミナルだと思っていたのだが、最後に着いたところはバスが集まってはいるが西部バスターミナルではなかった。実は途中にあって、いつの間にか通り過ぎていたのだ。やはり運転手に「着いたら教えてくれ」と言っとくべきだった。

そのバス庫にいた兄ちゃんに海印寺行きのバスはここから出るのかと聞いたところ、何やら韓国語で答えを返された。どうもここではないらしい。その時点で、私はまだそこが西部バスターミナルだと思い込んでいた。しかしその兄ちゃんはまた12番のバスに乗れと言う。今12番で来たのに。そして運転手に一言言ってくれた。ろくに礼も言えず、あたふたしてる間にバスが出発してしまった。「カムサハムニダ」の一言も言えず、とても申し訳なかった。

さて、そのバスも突然

「ここで降りろ。」

と言われ、降りたらバスはさっさと行ってしまった。降ろされたバス停に海印寺行きのバスが来るのかと思ったが、どこにも海印寺行きの表示はない。道の反対側にも渡ってみたが、そちらにもない。おいおい、なんちゅう場所で降ろしたんだ。本当にここでいいのか？ おかしいと思い少しそこから歩いてみると、ありました。バスターミナル。降ろされたところからは全然見えない。壁のハングル文字を調べたら「西部停留所」と書いてある。中へ入ったら確かに海印寺行きの切符売場があった。良かった。

それに乗り込み海印寺へ向かった。バスが山の入口にさしかかったところで係の人が乗り込んで来たが、入山料取られなかった。なんでだろう。気付かなかったのかな。他の人も払ってる様子なかったんだけど、ただ？ 正月サービス？

結局着いたのは17:00頃になってしまった。しかしそれがなかなか良かった。他に来ている人はほとんどなく、小川のせせらぎと遠くに聞こえる鳥のさえずりがとても心地良かった。道はまさに「登山」という感じで疲れたが、そのおかげで体は暖まった。夕暮れ時の静かな雰囲気の中で上へ上へと登って行き、最後にあの八万大蔵經の板庫を見たときはとても感動した。思わず

「うわー、すげー。」

と声をもらしてしまった。仏国寺や石窟庵よりいい。すごい。大晦日という時期と、夕方という時間がとても良かったのかもしれない。あの静けさと落ち着いた雰囲気の中での大蔵經のずらーっと並んだ景色は強く印象に残った。本当に来て良かった。

その後、宿をとってそこで正月を向かえるのもいいなあと思ったが、下りて来て大邱行きのバスが止まっているのを見たら大邱まで戻ろうという気になってしまった。初日出を海印寺で拝むというのも悪くはないが、なにしろ日程に余裕がない。明日のうちにソウルに着いておかなければならないのだ。もう景色は暗くなっていたが、切符を買ってバスに乗り込んだ。

西部バスターミナルに着いてバスを降り、どうやって東大邱駅まで行こうかと考えた。ふと地下鉄の駅が目に入った。あれ？大邱って地下鉄あるんだ。下りてみると券売機の上の路線図には「東大邱駅」がある。450ウォン。なあって、地下鉄なら簡単で便利じゃないか。この地下鉄のことは『地球の歩き方』に載ってなかったから、新情報として投稿しようなどと考えながら地下鉄に乗った。

が、しかし…。途中の駅で降ろされた。ある駅でいきなり乗客が全員出て行ってしまい、私には何のことやらさっぱりわからない。東大邱駅はもっと先なのに、なんでだ？路線図にはもっと先まで載ってたじゃないか…。実はこの地下鉄、まだその駅までしか開通していないらしいのだ。だから降ろされたという訳。だったら開通してない駅まで路線図に表示すんなよ！まぎらわしい！

しかたなく地上へ出ると、そこは中央なんとかという国鉄大邱駅の近くだった。自分のいる場所がわかってほっとし、とりあえず大邱駅まで歩いた。そこから東へ行けば東大邱駅に着くはずだ。途中、バス停で20番が東大邱駅へ行くという表示を見つけたので、20番に乗ることにした。

しかし、またもや東大邱駅をいつの間にか通り過ぎていて、川にかかった橋を渡ったところで

「これは絶対おかしい。また知らんところに行ってしまう。」

と思い、とにかくバスを降りた。標識を見ると案の定、今バスで来た方向に東大邱駅の矢印が向いている。私は歩いた。ずいぶん歩いて駅に着いてみると、駅の正面でなく裏の薄暗いところだった。大きな駅のはずなのにバスに乗ってて全然気付かなかったことも納得できた。いやーとても疲れた。今日は歩きっぱなしだった。

今いる宿は今までで最高だ。広い、きれいで、設備が整い過ぎるくらい整っている。これで20,000ウォンは安い。部屋はホテル並だ。今日、年越しの瞬間は近くのコンビニで買ったビールで一人で乾杯した。韓国の年末テレビ番組を見ながら。明日はソウルへ向かう。あー疲れた。

4.3 宗廟 { ソウル {

4.3.1 あけましておめでとう 1998年1月1日(木)

今日はまず鉄道の駅へ、ソウル行きセマウル号のチケットを買いに行った。しかしあっさり

「ない。」

と言われ、また高速バスで行くことになった。バスの切符売場のお姉さんがきれいだった！

ソウルまで約4時間。途中、雨が降ってきてやだなーと思っていたが、ソウルに着いたらやんでいた。

地下鉄で鍾路3街まで行き、適当に見つけた旅館ヨグァンに今日明日と泊まることにした。2泊と言ったら5,000ウォンまけてくれた。ここのおばちゃんは韓国語しか話さない。

宿に着いたのが15:00頃だったので、少し休んでから宗廟チョンミョへ行くことにした。宗廟は雨の後で道がぬかるんでいた。吐く息は白く、池は凍っていた。正直言って宗廟は見てもあまり面白くない。また、同時に見られるはずの昌慶宮チャンギョングンへは、門が閉まっていた行けなかった。休みだったのかな？

その後、この辺りをぶらぶらした。夕飯は近くの食堂でピピンパブを食べ、20:00ごろ酒場に入ってみた。日本語は通じず、メニューも写真なしのハングル文字だけだったので何もわからなかった。困っているとバイトの兄ちゃんが英語は話せるかと聞いてきた。何か食べるものがほしいと言うと(つまみが欲しいというつもりだったのだが)、フライドチキンと教えてくれたのでそれと生ビールをたのんだ。しかーし！出て来たのは直径40cmぐらいの皿にフライドチキン4個とスイカ、りんご、それからサラダ。そしてビールに付いてくるらしい、カリントウとトウモロコシの粒であった。なんだ、つまむものも付いてくるならチキン頼まなくて良かったのに。

でも、ビールもフライドチキンもとてもうまかった。一気に平らげてしまった。多分、酒場で独りで大食いするこんな奴、他にいないだろう。その店を出た後は、酔った勢いで18才未満お断り映画を観た。はっきり言って金損した。

明日はもう実質的に最後の日だ。

4.3.2 ことごとく閉店 1998年1月2日(金)

今日はまず東大門トンデムン方面へ行ってみた。市場シジャンでは、いちおう店は出ていたが少々活気が少ない気がした。大きな店が閉まっているせいだ。地下商店街も閉まっていた。露店ではキンパブやウドンの店があり、まるでコピーしたように同じ店が10軒ぐらい並んでいるところがあった。品揃えも店構えも全く同じなのだ。その中の1軒でウドンを食べた。関東風のうどんにコチュジャンと海苔と、ハンペンだか油揚げのようなものが入っていた。

東大門市場があまり面白くなかったので、次は期待の新堂洞市場シンダンドンシジャンへ行ってみた。犬鍋があるとしたらこの市場であろう。しかしここも軒なみ閉まっていた。何も面白くない。中央市場はやってしたが、見飽きた食材しか並んでいない。

次は南大門ナムデムン。しかしここもあまり面白くなかった。近くの百貨店も全て閉まっていた。そしてそのまま歩いて明洞ミョンドンへ行った。目指すは全州屋チョンジュウク(全州中央会館チョンジュジュンアンフェグァン)のピピンパブ。店では日本語が通じ、メニューや店内の案内にも日本語があってわかりやすかった。店員の衣装も良く、とても感じの良い店だ。日本人観光客向けなのだろう。そして、出て来ましたピピンパブ！待ってました！ご飯の焦げた感じがとても良く、とてもとてもうまかった。昨日のとは大違いだ。この店、日本に支店出したら流行ると思うんだけどなあ。もしかしてもうあたりして。大満足で店を出た後は、ぶらぶらしながらそのまま鐘閣チョンガクへ

歩いた。しかし町はどこも新宿みたいだ。目指していた本屋も閉まっていた。がっかりだ。

そして景福宮^{キョンボックン}。なんて広いんだ。これはソウルの中で最も見応えのある場所だ。やたらと工事中なのが残念だったが、そんなのどうってことないほど他に見るものがある広さだった。全体が完成（復元工事完了）したのを見てみたいものだ。過去に日本人によって破壊されたものが沢山あった。文化を破壊するなど、とんでもないことだ。長い歴史のあるものを壊すなんてもったいない。しかも王妃を殺したりして、なんで憎しみをうむようなことばかりやったんだろう。非常に腹が立った。閔妃の碑のところの説明には、日本語の説明文がなかった。あれはいかん。日本人観光客は全員見なければ。夕暮れ時、正殿の石畳とまばらな人影はとても良い景色を見せていた。新婚さんの記念撮影の姿も良かった。

景福宮を出た後、仁寺洞^{インサドン}を歩いた。閉まっている店もあったが渋い茶店が脇道に入ったところにあたり、道端の物売りが面白くてとても良い雰囲気を通りだった。そこを抜けてから MusicLand に行ってみたら、そこも閉まっていた。しょうがないので鐘路^{チョンノ}に何軒かある CD 店の 1 つに入って、韓国の CD 1 枚とカセットテープを 1 本買った。一応、ヒットしているものらしいが、どんなのか聞いた事はない。

それからちょっと T-ZONE を覗いて、また仁寺洞へ戻った。途中、鐘路でかっぱえびせんのお化けのような菓子を手に持って食べながら歩いている人を何人か見かけた。しばらく行くとそれを売っている露店があった。らせん状で長さ 1 メートルぐらいの菓子がたくさんぶら下がっていた。そして機械かららせん状のものがぐにゅーっと押し出されて、どんどん作られていた。面白いけど 1 人で 1 本食べるのはつらそうだ。おいしいのかな。

仁寺洞では景福宮で見た韓国ゴマや凧を売っている店があった。お土産用の安そうなコマとうちわを買った。いや、その前にプルゴギを食べに行ったのだが、やはり 1 人で食べるに来ているのは私だけだった。店の人は忙しそうに動きまわっていて、対応もそこそこにあっちこっちに行っていた。昼間の全州屋も忙しそうに動きまわっていたが、店の雰囲気はとても良かったぞ。この新迎賓^{シンウビン}ガーデンは店の印象がちょっと良くない。しかし、プルゴギはとてもうまかった。やはり大満足。

明日はもう日本へ帰らなければならない。やり残したことは、安重根^{アンジョングン}に関するものを見に行かなかったこと、カルグクスを食べていないことである。しかし、今回の旅行は閉まるとこばかりだったなあ。

今回の教訓：正月は家で休もう。

4.3.3 旅の終り 1998 年 1 月 3 日 (土)

「カルグクス」。宿近くの店にハングル文字でそう書いてあるのがわかった。店に入ってみたが、まだやってないと言われた。朝早かったので、店はまだほとんど閉まっていた。結局、韓国最後の飯は空港のカフェテリアで食べたハンバーガーとなった。うーん、食べたかったぞカルグクス。空港で土産を買い、両替をして搭乗手続きをすませた。空港の免税店は結構充実していたが、買いたくなるものは特になかった。

時間が来て飛行機に乗り込むと、席を替わってくれというおっさんが来て強引に替わら

れてしまった。本来、左側の窓際席が私が取った席だ。私のとなりの1席とその前の1席、その席から離れた右側の窓際2席が彼ら4人の取った席だった。私はせっかく窓際席だったのに、前の席に移らされた。

「親子だから。」

と言われたが、なんだその理由は。1時間半ぐらいしか乗らないんだからそれくらい我慢せい！なんでそんな隣どうしじゃないといやなんだ？取った座席どうりに座れよ！いやなら搭乗券取るときになんとかしとけ。とてもとても腹が立った。

でも気の弱い私……。 「そんな小さなことで怒るのも大人げないな」などと無理矢理自分を納得させたりした。あ～情けない。ああいう時は、言われ方ひとつで随分ちがう。もしも、

「すみませんが、席替わっていただけますか？」

と丁寧に言われたとしたら、気持ち良く席を譲ることができただろう。腹も立たなかったにちがいない。(本当は勝手に搭乗券の番号でない席に替わるのはいけないと思うが。)

自分の席にまだ座ってもいないうちに、急に

「替わって。親子だから。」

と言われて、ずっと自分の席に座られてしまったら、あなたならどうしますか？

腹の立つ日本人に会ったこと | それが今回の旅のしめくくりであった。後味悪すぎ。